

10/500750

Rec'd PCT/PTO 06 JUL 2004

PCT/JP03/00553

日本国特許庁

04.03.03

JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出願年月日

Date of Application:

2002年 1月22日

REC'D 21 MAR 2003

出願番号

Application Number:

特願2002-013421

[ST.10/C]:

[JP2002-013421]

WIPO

PCT

出願人

Applicant(s):

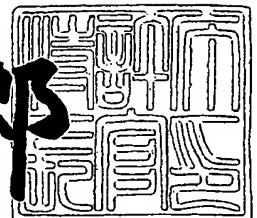
エーザイ株式会社

PRIORITY
DOCUMENTSUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH RULE 17.1(a) OR (b)

2003年 2月18日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

太田信一郎



出証番号 出証特2003-3008635

【書類名】 特許願

【整理番号】 EP02IM0101

【提出日】 平成14年 1月22日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 A61K 31/00

【発明者】

 【住所又は居所】 茨城県つくば市二の宮 4 - 5 - 8 7

 【氏名】 飯村 洋一

【発明者】

 【住所又は居所】 茨城県筑波郡谷和原村絹の台 6 - 1 8 - 7

 【氏名】 小笹 貴史

【発明者】

 【住所又は居所】 茨城県龍ヶ崎市松葉 3 - 2 - 4

 【氏名】 山西 嘉晴

【特許出願人】

 【識別番号】 000000217

 【氏名又は名称】 エーザイ株式会社

 【代表者】 内藤 晴夫

【手数料の表示】

 【予納台帳番号】 004983

 【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

 【物件名】 明細書 1

 【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

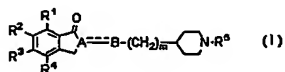
【書類名】 明細書

【発明の名称】 インダノン誘導体を含むシグマ受容体結合剤

【特許請求の範囲】

【請求項1】 式

【化1】



〔式 (I) 中、 R^1 、 R^2 、 R^3 および R^4 は同一又は相異なって水素原子、ハロゲン原子、水酸基、ニトリル基、置換されていてもよい C_{1-6} アルキル基、置換されていてもよい C_{3-8} シクロアルキル基、置換されていてもよい C_{1-6} アルコキシ基、置換されていてもよい C_{3-8} シクロアルコキシ基、置換されていてもよい C_{1-6} アシル基、置換されていてもよい C_{1-6} アルコキシカルボニル基、置換されていてもよい C_{1-6} アルキルアミノカルボニルオキシ基、置換されていてもよいジ (C_{1-6} アルキル) アミノカルボニルオキシ基、ニトロ基、置換されていてもよいアミノ基、置換されていてもよいアミド基、メルカプト基又は置換されていてもよい C_{1-6} チオアルコキシ基を示し、さらに R^1 と R^2 又は R^2 と R^3 又は R^3 と R^4 で脂肪環、芳香環、複素環又はアルキレンジオキシ環を形成してもよい；

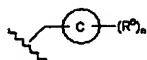
部分構造

【化2】



は $>CH-CH_2-$ 又は $>C=CH-$ で表される基を示す； m は0又は1～5の整数を示す。) で表される基から選ばれたいずれかの基を示す； R^5 は水素原子、置換されていてもよい C_{1-6} アルキル基、置換されていてもよい C_{2-6} アルケニル基、置換されていてもよい C_{2-6} アルキニル基、置換されていてもよい C_{3-8} シクロアルキル基、2, 2- (アルキレンジオキシ) エチル基又は式

【化 3】



(式中、C環はベンゼン環、脂肪環又は複素環を示す； R^6 はそれぞれ同一又は相異なって水素原子、ハロゲン原子、水酸基、ニトリル基、置換されていてもよい C_{1-6} アルキル基、置換されていてもよい C_{2-6} アルケニル基、置換されていてもよい C_{2-6} アルキニル基、置換されていてもよい C_{3-8} シクロアルキル基、置換されていてもよい C_{1-6} アルコキシ基、置換されていてもよい C_{1-6} アルコシアルコキシ基、置換されていてもよいアリールオキシ基、置換されていてもよいアラルキルオキシ基等を示し、さらに、 R^6 は2つの R^6 どうしで脂肪環、芳香環、複素環又はアルキレンジオキシ環を形成してもよい； n は1～5の整数を示す。)で表される基を示す； ただし、1-ベンジル-4-[(5, 6-ジメトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジンもしくはその薬理的に許容される塩又はそれらの水和物を除く。]で表されるインダノン誘導体もしくはその薬理的に許容される塩又はそれらの水和物を含有してなるシグマ受容体結合剤。

【請求項2】式(I)で表されるインダノン誘導体が

- (1) 1-ベンジル-4-[(5, 6-ジメトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン、
- (2) 1-ベンジル-4-[(5, 6-ジエトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン、
- (3) 1-ベンジル-4-[(1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン、
- (4) 1-ベンジル-4-[(5-メトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン、
- (5) 1-ベンジル-4-[(5-エトキシ-6-メトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン、
- (6) 1-ベンジル-4-[(5, 6-ジエトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン、

ル] メチルピペリジン、

(7) 1-ベンジル-4-[[5, 6-ジ(1-プロピルオキシ)-1-インダノン]-2-イル] メチルピペリジン、

(8) 1-ベンジル-4-[2-[(5, 6-ジメトキシ-1-インダノン)-2-イル] エチル] ピペリジン、

(9) 1-ベンジル-4-[3-[(5, 6-ジメトキシ-1-インダノン)-2-イル] プロピル] ピペリジン、

(10) 1-(3-フルオロベンジル)-4-[(5, 6-ジメトキシ-1-インダノン)-2-イル] メチルピペリジン、

(11) 1-(3-メチルベンジル)-4-[(5, 6-ジメトキシ-1-インダノン)-2-イル] メチルピペリジン、

(12) 1-シクロヘキシルメチル-4-[(5, 6-ジメトキシ-1-インダノン)-2-イル] メチルピペリジンから選ばれた一種である請求項1記載のインダノン誘導体もしくはその薬理的に許容される塩又はそれらの水和物を含有してなるシグマ受容体結合剤。

【請求項3】シグマ受容体拮抗剤又はシグマ受容体活性化剤である請求項1又は2記載のシグマ受容体結合剤。

【請求項4】シグマ受容体作動性の医薬が有効な疾患の予防・治療・改善剤である請求項1又は2記載のシグマ受容体結合剤。

【請求項5】シグマ受容体拮抗作用が有効な疾患の予防・治療・改善剤である請求項1又は2記載のシグマ受容体結合剤。

【請求項6】シグマ受容体活性化作用が有効な疾患の予防・治療・改善剤である請求項1又は2記載のシグマ受容体結合剤。

【請求項7】精神障害の予防・治療・改善剤である請求項1又は2記載のシグマ受容体結合剤。

【請求項8】精神障害が、脳血管性痴呆及び/又は老人性痴呆に伴う障害、精神分裂病、情緒障害、うつ病、神経症、心身症及び不安症から選択される1種以上である請求項7記載のシグマ受容体結合剤。

【請求項9】脳血管性痴呆及び/又は老人性痴呆に伴う障害が、攻撃的行為、精

神興奮、徘徊、せん妄、幻覚及び多動から選択される1種以上である請求項8記載のシグマ受容体結合剤。

【請求項10】 知的機能改善剤である請求項1又は2記載のシグマ受容体結合剤

【請求項11】 式(I) で表されるインダノン誘導体が

(1) 1-ベンジル-4-[[5, 6-(1, 2-エチレンジオキシ)-1-インダノン]-2-イリデン]メチルピペリジン、

(2) 1-ベンジル-4-[(5-シクロヘキシル-1-インダノン)-2-イリデン]メチルピペリジン、

(3) 1-ベンジル-4-[(5-シクロヘキシルオキシ-6-メトキシ-1-インダノン)-2-イリデン]メチルピペリジン、

(4) 1-ベンジル-4-[[5-メトキシ-6-(2-プロピルオキシ)-1-インダノン]-2-イリデン]メチルピペリジン、

(5) 1-ベンジル-4-[[5, 6-(1, 2-エチレンジオキシ)-1-インダノン]-2-イル]メチルピペリジン、

(6) 1-ベンジル-4-[[5, 6-シクロヘキシル-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン、

(7) 1-ベンジル-4-[(5-シクロヘキシルオキシ-6-メトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン、

(8) 1-ベンジル-4-[[5-メトキシ-6-(2-プロピルオキシ)-1-インダノン]-2-イル]メチルピペリジン、

(9) 1-ベンジル-4-[(6-エトキシ-5-メトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン、

(10) 1-ベンジル-4-[[6-メトキシ-5-(1-プロピルオキシ)-1-インダノン]-2-イル]メチルピペリジン、

(11) 1-ベンジル-4-[(5-シアノメトキシ-6-メトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン、

(12) 1-シクロペンチルメチル-4-[(5, 6-ジエトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン、

(13) 1-シクロヘキシルメチル-4-[(5, 6-ジエトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン、

(14) 1-シクロヘプチルメチル-4-[(5, 6-ジエトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン、

(15) 1-シクロオクチルメチル-4-[(5, 6-ジエトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン、

(16) 1-(2-フルオロベンジル)-4-[(5, 6-ジエトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン、

(17) 1-(3-フルオロベンジル)-4-[(5, 6-ジエトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン、

(18) 1-(4-フルオロベンジル)-4-[(5, 6-ジエトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン、

(19) 1-(2-クロロベンジル)-4-[(5, 6-ジエトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン、

(20) 1-(3-クロロベンジル)-4-[(5, 6-ジエトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン、

(21) 1-(4-クロロベンジル)-4-[(5, 6-ジエトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン、

(22) 1-(2-メチルベンジル)-4-[(5, 6-ジエトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン、

(23) 1-(3-メチルベンジル)-4-[(5, 6-ジエトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン、

(24) 1-(4-メチルベンジル)-4-[(5, 6-ジエトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジンから選ばれた一種であるインダノン誘導体もしくはその薬理的に許容される塩又はそれらの水和物。

【請求項12】請求項11記載のインダノン誘導体もしくはその薬理的に許容される塩又はそれらの水和物を含有してなる医薬組成物。

【請求項13】シグマ受容体結合剤である請求項12記載の医薬組成物。

【請求項14】シグマ受容体拮抗剤又はシグマ受容体活性化剤である請求項12

記載の医薬組成物。

【請求項 1 5】シグマ受容体作動性の医薬が有効な疾患の予防・治療・改善剤である請求項 1 2 記載の医薬組成物。

【請求項 1 6】シグマ受容体拮抗作用が有効な疾患の予防・治療・改善剤である請求項 1 2 記載の医薬組成物。

【請求項 1 7】シグマ受容体活性化作用が有効な疾患の予防・治療・改善剤である請求項 1 2 記載の医薬組成物。

【請求項 1 8】精神障害の予防・治療・改善剤である請求項 1 2 記載の医薬組成物。

【請求項 1 9】精神障害が、脳血管性痴呆及び/又は老人性痴呆に伴う障害、精神分裂病、情緒障害、うつ病、神経症、心身症及び不安症から選択される 1 種以上である請求項 1 2 記載の医薬組成物。

【請求項 2 0】脳血管性痴呆及び/又は老人性痴呆に伴う障害が、攻撃的行為、精神興奮、徘徊、せん妄、幻覚及び多動から選択される 1 種以上である請求項 1 9 記載のシグマ受容体結合剤。

【請求項 2 1】知的機能改善剤である請求項 1 2 記載の医薬組成物。

【請求項 2 2】アセチルコリンエステラーゼ阻害剤である請求項 1 2 記載の医薬組成物。

【請求項 2 3】老人性痴呆、脳血管性痴呆、注意欠陥多動障害、緑内障、重症筋無力症、偏頭痛の予防・治療・改善剤である請求項 1 2 記載の医薬組成物。

【請求項 2 4】老人性痴呆症が、アルツハイマー型痴呆である請求項 2 3 記載の医薬組成物。

【発明の詳細な説明】

【0 0 0 1】

【発明の属する技術分野】

本発明は、インダノン誘導体及びインダノン誘導体を含有するシグマ受容体結合剤に関する。

【0 0 0 2】

【従来技術】

従来から、臨床で使用されてきた抗精神病薬や精神分裂病治療薬の多くは、ドーパミン受容体拮抗剤である。しかし、臨床で有効性が認められているハロペリドールをはじめ、抗精神病薬および精神分裂病治療薬のほとんどに、ドーパミン受容体遮断作用に基づく錐体外路症状等の副作用があり、問題となっていた。

一方、最近の研究から、セロトニン、フェンシクリジン、ムスカリン性アセチルコリン、シグマ受容体等、非ドーパミン型機構に属するリガンドや受容体も各種精神病に関与していることが示唆されている。

その一つであるシグマ受容体は、Martinらの研究により、モルヒネ等が結合し幻覚作用を発現するオピエート受容体のサブタイプの一つとして1976年に提唱されたものであるが、その後の研究により非オピエート受容体であることが明らかになった。さらにハロペリドール等多くの抗精神病薬や精神分裂病治療薬がシグマ受容体に高親和性を有することが明らかとなつて以来、シグマ受容体に結合する化合物は、精神分裂病治療薬の候補として注目されてきた (Pharmacol. Reviews, 42, 355 (1990))。その後、さらにシグマ受容体に関する研究が進み、シグマ受容体に結合する化合物は、抗精神病作用以外に神経保護作用、抗うつ作用、抗不安作用、抗痴呆作用、抗けいれん作用、薬物依存拮抗作用、鎮咳作用、止瀉作用、抗炎症作用、涙液タンパク放出刺激作用および中枢排尿反射抑制作用等多彩な作用を示すことが報告 (日薬理誌, 114, 3 (1999)) されている。

シグマ受容体結合作用を有する化合物に関しては、例えば特表平5-505172号公報に開示された抗精神病剤の1-シクロアルキルピペリジン類、特開平6-329535号公報に開示されたシグマ受容体拮抗薬、特開平7-89949に開示された1, 4-(ジフェニルアルキル)ピペラジン誘導体、特表平9-508893号公報に開示された2-アリーールアルケニルアザシクロアルカン誘導体、特表平11-503140号公報に開示されたシグマ受容体が変調した疾患の治療のための薬剤を製造するための使用等がこれまでに知られている。

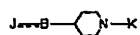
また、アセチルコリンエステラーゼ阻害剤として知られている1-ベンジル-4-[(5, 6-ジメトキシ-1-インダノン) -2-イル]メチルピペリジンがシグマ受容体結合作用を有することがJ. Med. Chem., 37, 364 (1994).およびNeuroscience Lett., 260, 5 (1999).にて、さらに1-ベンジル-4-[(5, 6

ージメトキシ-1-インダノン)-2-イル] ピペリジンがシグマ受容体結合作用を有することが特開平11-349481号公報にて開示されている。

一方、本発明者らは、アセチルコリンエステラーゼ阻害活性を有する化合物として以下に掲げる化合物を第2733203号特許公報にて報告している。

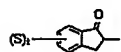
式

【化4】



〔式中、Jは式

【化5】



(式中、Sは炭素数1-6の低級アルコキシ基等を示す； tは0又は1-4の整数を意味する。)等を示す； Bはメチレン鎖等を示す； Kは置換されていてもよいベンジル基等を示す； 部分構造

【化6】

は単結合もしくは二重結合を意味する； ただし、Jが5, 6-ジメトキシ-1-インダノン-2-イル基で、Bが-CH₂-基で、Kが無置換のベンジル基であるもの又はその薬理的に許容される塩又はそれらの水和物を除く。〕で表される環状アミン誘導体又はその薬理的に許容される塩又はそれらの水和物。

しかしながら、前記化合物等とシグマ受容体との関連については、全く知られていない。

【0003】

【本発明が解決しようとする課題】

上述の如く、シグマ受容体結合性を有する化合物は様々な疾患の治療薬としての利用が期待されているが、従来のシグマ受容体結合剤はまだ開発途上であり、

臨床上有用性の高いシグマ受容体結合剤はまだ見出されていない。さらなる有用性と安全性のバランスの取れた新たなシグマ受容体結合剤が求められている。

本発明者らは、これらを満たす化合物及びシグマ受容体結合剤の提供を目的として鋭意検討を行った結果、新たなインダノン誘導体が優れたシグマ受容体結合作用を有しシグマ受容体結合剤として有用であることを見出し、本発明を完成した。

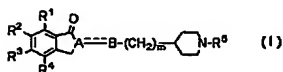
【0004】

【課題を解決するための手段】

即ち、本発明は、

1) 式

【化7】



〔式 (I) 中、 $(R^1, R^2, R^3$ および R^4 は同一又は相異なって水素原子、ハロゲン原子、水酸基、ニトリル基、置換されていてもよい C_{1-6} アルキル基、置換されていてもよい C_{3-8} シクロアルキル基、置換されていてもよい C_{1-6} アルコキシ基、置換されていてもよい C_{3-8} シクロアルコキシ基、置換されていてもよい C_{1-6} アシル基、置換されていてもよい C_{1-6} アルコキシカルボニル基、置換されていてもよい C_{1-6} アルキルアミノカルボニルオキシ基、置換されていてもよいジ (C_{1-6} アルキル) アミノカルボニルオキシ基、ニトロ基、置換されていてもよいアミノ基、置換されていてもよいアミド基、メルカプト基又は置換されていてもよい C_{1-6} チオアルコキシ基を示し、さらに R^1 と R^2 又は R^2 と R^3 又は R^3 と R^4 で脂肪環、芳香環、複素環又はアルキレンジオキシ環を形成してもよい；

部分構造

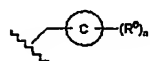
【化8】



は $>CH-CH_2-$ 又は $>C=CH-$ で表される基を示す； m は 0 又は 1 ~ 5

の整数を示す。) で表される基から選ばれたいずれかの基を示す; R^5 は水素原子、置換されていてもよい C_{1-6} アルキル基、置換されていてもよい C_{2-6} アルケニル基、置換されていてもよい C_{2-6} アルキニル基、置換されていてもよい C_{3-8} シクロアルキル基、2, 2-(アルキレンジオキシ)エチル基又は式

【化9】



(式中、C環はベンゼン環、脂肪環又は複素環を示す; R^6 はそれぞれ同一又は相異なって水素原子、ハロゲン原子、水酸基、ニトリル基、置換されていてもよい C_{1-6} アルキル基、置換されていてもよい C_{2-6} アルケニル基、置換されていてもよい C_{2-6} アルキニル基、置換されていてもよい C_{3-8} シクロアルキル基、置換されていてもよい C_{1-6} アルコキシ基、置換されていてもよい C_{1-6} アルコシアルコキシ基、置換されていてもよいアリールオキシ基、置換されていてもよいアラルキルオキシ基等を示し、さらに、 R^6 は2つの R^6 どうしで脂肪環、芳香環、複素環又はアルキレンジオキシ環を形成してもよい; n は1~5の整数を示す。) で表される基を示す; ただし、1-ベンジル-4-[(5, 6-ジメトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジンもしくはその薬理的に許容される塩又はそれらの水和物を除く。] で表されるインダノン誘導体もしくはその薬理的に許容される塩又はそれらの水和物を含有してなるシグマ受容体結合剤; 2) 式(I) で表されるインダノン誘導体が

- (1) 1-ベンジル-4-[(5, 6-ジメトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン、
- (2) 1-ベンジル-4-[(5, 6-ジエトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン、
- (3) 1-ベンジル-4-[(1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン、
- (4) 1-ベンジル-4-[(5-メトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン、

- (5) 1-ベンジル-4-[(5-エトキシ-6-メトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン、
- (6) 1-ベンジル-4-[(5, 6-ジエトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン、
- (7) 1-ベンジル-4-[[5, 6-ジ(1-プロピルオキシ)-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン、
- (8) 1-ベンジル-4-[2-[(5, 6-ジメトキシ-1-インダノン)-2-イル]エチル]ピペリジン、
- (9) 1-ベンジル-4-[3-[(5, 6-ジメトキシ-1-インダノン)-2-イル]プロピル]ピペリジン、
- (10) 1-(3-フルオロベンジル)-4-[(5, 6-ジメトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン、
- (11) 1-(3-メチルベンジル)-4-[(5, 6-ジメトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン、
- (12) 1-シクロヘキシルメチル-4-[(5, 6-ジメトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジンから選ばれた一種である 1) 記載のインダノン誘導体もしくはその薬理的に許容される塩又はそれらの水和物を含有してなるシグマ受容体結合剤； 3) シグマ受容体拮抗剤又はシグマ受容体活性化剤である 1) 又は 2) 記載のシグマ受容体結合剤； 4) シグマ受容体作動性の医薬が有効な疾患の予防・治療・改善剤である 1) 又は 2) 記載のシグマ受容体結合剤； 5) シグマ受容体拮抗作用が有効な疾患の予防・治療・改善剤である 1) 又は 2) 記載のシグマ受容体結合剤； 6) シグマ受容体活性化作用が有効な疾患の予防・治療・改善剤である 1) 又は 2) 記載のシグマ受容体結合剤； 7) 精神障害の予防・治療・改善剤である 1) 又は 2) 記載のシグマ受容体結合剤；
- 8) 精神障害が、脳血管性痴呆及び/又は老人性痴呆に伴う障害、精神分裂病、情緒障害、うつ病、神経症、心身症及び不安症から選択される 1 種以上である 7) 記載のシグマ受容体結合剤； 9) 脳血管性痴呆及び/又は老人性痴呆に伴う障害が、攻撃的行為、精神興奮、徘徊、せん妄、幻覚及び多動から選択される 1 種以上である 8) 記載のシグマ受容体結合剤； 10) 知的機能改善剤である

請求項 1 又は 2 記載のシグマ受容体結合剤； 11) 式 (I) で表されるインダノン誘導体が

(1) 1-ベンジル-4-[[5, 6-(1, 2-エチレンジオキシ)-1-インダノン]-2-イリデン]メチルピペリジン、

(2) 1-ベンジル-4-[(5-シクロヘキシル-1-インダノン)-2-イリデン]メチルピペリジン、

(3) 1-ベンジル-4-[(5-シクロヘキシルオキシ-6-メトキシ-1-インダノン)-2-イリデン]メチルピペリジン、

(4) 1-ベンジル-4-[[5-メトキシ-6-(2-プロピルオキシ)-1-インダノン]-2-イリデン]メチルピペリジン、

(5) 1-ベンジル-4-[[5, 6-(1, 2-エチレンジオキシ)-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン、

(6) 1-ベンジル-4-[(5-シクロヘキシル-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン、

(7) 1-ベンジル-4-[(5-シクロヘキシルオキシ-6-メトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン、

(8) 1-ベンジル-4-[[5-メトキシ-6-(2-プロピルオキシ)-1-インダノン]-2-イル]メチルピペリジン、

(9) 1-ベンジル-4-[(6-エトキシ-5-メトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン、

(10) 1-ベンジル-4-[[6-メトキシ-5-(1-プロピルオキシ)-1-インダノン]-2-イル]メチルピペリジン、

(11) 1-ベンジル-4-[(5-シアノメトキシ-6-メトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン、

(12) 1-シクロペンチルメチル-4-[(5, 6-ジエトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン、

(13) 1-シクロヘキシルメチル-4-[(5, 6-ジエトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン、

(14) 1-シクロヘプチルメチル-4-[(5, 6-ジエトキシ-1-インダ

ノン) - 2-イル] メチルピペリジン、
 (15) 1-シクロオクチルメチル-4- [(5, 6-ジエトキシ-1-イン
 ダノン) - 2-イル] メチルピペリジン、
 (16) 1-(2-フルオロベンジル) - 4- [(5, 6-ジエトキシ-1-イ
 ンダノン) - 2-イル] メチルピペリジン、
 (17) 1-(3-フルオロベンジル) - 4- [(5, 6-ジエトキシ-1-イ
 ンダノン) - 2-イル] メチルピペリジン、
 (18) 1-(4-フルオロベンジル) - 4- [(5, 6-ジエトキシ-1-イ
 ンダノン) - 2-イル] メチルピペリジン、
 (19) 1-(2-クロロベンジル) - 4- [(5, 6-ジエトキシ-1-イン
 ダノン) - 2-イル] メチルピペリジン、
 (20) 1-(3-クロロベンジル) - 4- [(5, 6-ジエトキシ-1-イン
 ダノン) - 2-イル] メチルピペリジン、
 (21) 1-(4-クロロベンジル) - 4- [(5, 6-ジエトキシ-1-イン
 ダノン) - 2-イル] メチルピペリジン、
 (22) 1-(2-メチルベンジル) - 4- [(5, 6-ジエトキシ-1-イン
 ダノン) - 2-イル] メチルピペリジン、
 (23) 1-(3-メチルベンジル) - 4- [(5, 6-ジエトキシ-1-イン
 ダノン) - 2-イル] メチルピペリジン、
 (24) 1-(4-メチルベンジル) - 4- [(5, 6-ジエトキシ-1-イン
 ダノン) - 2-イル] メチルピペリジンから選ばれた一種であるインダノン誘導
 体もしくはその薬理的に許容される塩又はそれらの水和物； 12) 11) 記載
 のインダノン誘導体もしくはその薬理的に許容される塩又はそれらの水和物を
 含有してなる医薬組成物； 13) シグマ受容体結合剤である請求項12記載の医
 薬組成物； 14) シグマ受容体拮抗剤又はシグマ受容体活性化剤である12)
 記載の医薬組成物； 15) シグマ受容体作動性の医薬が有効な疾患の予防・治
 療・改善剤である12)記載の医薬組成物； 16) シグマ受容体拮抗作用が有
 効な疾患の予防・治療・改善剤である12)記載の医薬組成物； 17) シグマ
 受容体活性化作用が有効な疾患の予防・治療・改善剤である12)記載の医薬組

成物； 18) 精神障害の予防・治療・改善剤である12) 記載の医薬組成物；
 19) 精神障害が、脳血管性痴呆及び/又は老人性痴呆に伴う障害、精神分裂病、情緒障害、うつ病、神経症、心身症及び不安症から選択される1種以上である12) 記載の医薬組成物； 20) 脳血管性痴呆及び/又は老人性痴呆に伴う障害が、攻撃的行為、精神興奮、徘徊、せん妄、幻覚及び多動から選択される1種以上である19) 記載のシグマ受容体結合剤； 21) 知的機能改善剤である12) 記載の医薬組成物； 22) アセチルコリンエステラーゼ阻害剤である12) 記載の医薬組成物； 23) 老人性痴呆、脳血管性痴呆、注意欠陥多動障害、緑内障、重症筋無力症、偏頭痛の予防・治療・改善剤である12) 記載の医薬組成物； 24) 老人性痴呆症が、アルツハイマー型痴呆である23) 記載の医薬組成物、に関する。

【0005】

以下に、本願明細書において記載する記号、用語等の意義を説明し、本発明を詳細に説明する。

【0006】

前記式(I)において、「ハロゲン原子」とは、フッ素原子、塩素原子、臭素原子、ヨウ素原子等の原子をいい、好ましくはフッ素原子、塩素原子、臭素原子である。

【0007】

前記式(I)における「C₁₋₆アルキル基」とは、炭素数1～6のアルキル基を意味し、好ましい基としてはメチル基、エチル基、n-プロピル基、i-プロピル基、n-ブチル基、i-ブチル基、t-ブチル基、n-ペンチル基、i-ペンチル基、ネオペンチル基、ヘキシル基、1-メチルプロピル基、1-エチルプロピル基、1-メチルブチル基、2-メチルブチル基等の直鎖又は分枝状アルキル基があげられ、より好ましくはメチル基、エチル基、n-プロピル基、i-プロピル基、2-メチル-1-プロピル基、t-ブチル基等である。

前記式(I)における「C₃₋₈シクロアルキル基」とは、炭素数3～8の環状アルキル基を意味し、好ましくはシクロプロピル基、シクロブチル基、シクロペンチル基、シクロヘキシル基、シクロヘプチル基、シクロオクチル基等である。

【0008】

前記式 (I) における「 C_{1-6} アルコキシ基」における好ましい基としては、メトキシ基、エトキシ基、*n*-プロポキシ基、*i*-プロポキシ基、*n*-ブトキシ基、*i*-ブトキシ基、*t*-ブトキシ基、ペンチルオキシ基、ヘキシルオキシ基等の直鎖又は分枝状アルコキシ基が挙げられる。また、「置換されていてもよい C_{1-6} アルコキシ基」における当該「置換基」における好ましい基としては、水酸基、ハロゲン原子、ニトリル基、ニトロ基等が挙げられる。

【0009】

前記式 (I) における「 C_{3-8} シクロアルコキシ基」における好ましい基としては、シクロプロポキシ基、シクロブトキシ基、シクロペンチルオキシ基、シクロヘキシルオキシ基、シクロヘプチルオキシ基、シクロオクチルオキシ基があげられ、より好ましくは、シクロペンチルオキシ基、シクロヘキシルオキシ基、シクロヘプチルオキシ基、シクロオクチルオキシ基である。

【0010】

前記式 (I) における「 C_{1-6} アシル基」とは、炭素数 1~6 の脂肪酸から誘導される直鎖又は分枝状アシル基を意味し、好ましい基としてはホルミル基、アセチル基、プロピオニル基、ブチリル基、イソブチリル基、バレリル基、イソバレリル基、ピバロイル基、ヘキサノイル基等が挙げられる。

【0011】

前記式 (I) における「 C_{1-6} アルコキシカルボニル基」における好ましい基としてはメトキシカルボニル基、エトキシカルボニル基、*n*-プロポキシカルボニル基、*i*-プロポキシカルボニル基、*n*-ブトキシカルボニル基、*i*-ブトキシカルボニル基、*tert*-ブトキシカルボニル基、ペンチルオキシカルボニル基、ヘキシルオキシカルボニル基等があげられ、好ましくはメトキシカルボニル基、エトキシカルボニル基、*n*-プロポキシカルボニル基、*i*-プロポキシカルボニル基等が挙げられる。

【0012】

前記式 (I) において、「 C_{1-6} アルキルアミノカルボニルオキシ基」および「ジ(C_{1-6} アルキル)-アミノカルボニルオキシ基」における好ましい基として

は、メチルアミノカルボニルオキシ基、エチルアミノカルボニルオキシ基、*n*-プロピルアミノカルボニルオキシ基、*i*-プロピルアミノカルボニルオキシ基、*n*-ブチルアミノカルボニルオキシ基、*i*-ブチルアミノカルボニルオキシ基、*tert*-ブチルアミノカルボニルオキシ基、*n*-ペンチルアミノカルボニルオキシ基、*i*-ペンチルアミノカルボニルオキシ基、ネオペンチルアミノカルボニルオキシ基、ヘキシルアミノカルボニルオキシ基、1-メチルプロピルアミノカルボニルオキシ基、1-メチルブチルアミノカルボニルオキシ基、2-メチルブチルアミノカルボニルオキシ基、ジメチルアミノカルボニルオキシ基、ジエチルアミノカルボニルオキシ基、ジ-(*n*-プロピル)-アミノカルボニルオキシ基、ジ-(*i*-プロピル)-アミノカルボニルオキシ基、ジ-(*n*-ブチル)-アミノカルボニルオキシ基、ジ-(*i*-ブチル)-アミノカルボニルオキシ基、ジ-(*tert*-ブチル)-アミノカルボニルオキシ基、ジ-(*n*-ペンチル)-アミノカルボニルオキシ基、ジ-(*i*-ペンチル)-アミノカルボニルオキシ基、ジ-(ネオペンチル)-アミノカルボニルオキシ基、ジ-(*n*-ヘキシル)-アミノカルボニルオキシ基、ジ-(1-メチルプロピル)-アミノカルボニルオキシ基、ジ-(1-メチルブチル)-アミノカルボニルオキシ基、ジ-(2-メチルブチル)-アミノカルボニルオキシ基等が挙げられる。

【 0 0 1 3 】

前記式 (I) における「置換されていてもよいアミノ基」とは、窒素原子がC₁₋₆アルキル基、スルホン酸残基等の基で置換されていてもよいアミノ基を意味し、さらに、当該アミノ基には環状のアミノ基も含まれる。当該「置換されていてもよいアミノ基」としては、例えばアミノ基、メチルアミノ基、ジメチルアミノ基、ピロリジニル基、ピラゾリニル基、ピペリジニル基、ピペラジニル基、アセタミド基、プロピオンアミド基、メタンスルホニルアミド基、エタンスルホニルアミド基、トルエンスルホニルアミド基、*N*-メチルアセタミド基等が挙げられる。

【 0 0 1 4 】

前記式 (I) における「置換されていてもよいアミド基」とは、窒素原子がC₁₋₆アルキル基等の基で置換されていてもよいアミド基を意味し、さらに、当該

アミド基には環状アミンのアミド基も含まれる。当該「置換されていてもよいアミド基」としては、例えばアミド基、N-メチルアミド基、N,N-ジメチルアミド基、N-エチルアミド基、N,N-ジエチルアミド基、N-メチル-N-エチルアミド基、ピロリジニルカルボニル基、ピラゾリニルカルボニル基、ピペリジルカルボニル基、ピペラジニルカルボニル基等が挙げられる。

【0015】

前記式(I)における「C₁₋₆チオアルコキシ基」とは、前記定義におけるC₁₋₆アルキル基に同意義の基が硫黄原子に結合した基を意味し、例えばメチルチオ基(-SCH₃)、エチルチオ基(-SC₂H₅)等が挙げられる。

【0016】

前記式(I)において、「脂肪環」とは、特に限定されないが、好ましくは、シクロペンタン環、シクロヘキサン環、シクロヘプタン環、シクロオクタン環等があげられ、「芳香環」における好ましい例としては、フラン環、チオフェン環、ピロール環、イミダゾール環、オキサゾール環、チアゾール環、トリアゾール環、ピリジン環、ピラジン環、ピリミジン環、テトラヒドロフラン環、テトラヒドロピラン環、ジオキサン環、ジオキソラン環、ピペリジン環、ピペラジン環、モルホリン環、チオモルホリン環等があげられる。

また、さらに、「R¹とR²又はR²とR³又はR³とR⁴どうしでアルキレンジオキシ環を形成」した場合における好ましい例としては、メチレンジオキシ基、エチレンジオキシ基、プロピレンジオキシ基等が挙げられる。

【0017】

前記式(I)において、mにおける好ましい数としては、0又は1～5の整数であり、より好ましくは0又は1～3の整数であり、さらに好ましくは0又は1～2の整数であり、もっとも好ましくは0又は1である。nにおける好ましい数としては、0又は1～3の整数であり、より好ましくは1又は2である。

【0018】

前記式(I)において、「C₂₋₆アルケニル基」とは、炭素数が2～6個のアルケニル基をいい、例えばビニル基、アリル基、1-プロペニル基、イソプロペニル基、1-ブテン-1-イル基、1-ブテン-2-イル基、1-ブテン-3-イル基、2-

ブテン-1-イル基、2-ブテン-2-イル基等の直鎖状又は分枝鎖状の C_{2-6} アルケニル基があげられ、好ましくはビニル基、アリル基、イソプロペニル基である。

【0019】

前記式(I)において、「 C_{2-6} アルキニル基」とは、炭素数が2～6個のアルキンから誘導されるアルキニル基をいい、好ましい基としてはエチニル基、1-プロピニル基、2-プロピニル基、ブチニル基、ペンチニル基、ヘキシニル基等の直鎖状又は分子鎖状の C_{2-6} アルキニル基等が挙げられる。

【0020】

前記式(I)において、「2,2-(アルキレンジオキシ)エチル基」とは、エチル基の末端炭素原子が環状アルキレンジオキシ基で置換された基(アセタール基)を意味し、好ましい基としては、2,2-(エチレンジオキシ)エチル基[別名:(1,3-ジオキソラン-2-イル)メチル基]、2,2-(プロピレンジオキシ)エチル基[別名:(1,3-ジオキサラン-2-イル)メチル基]、2,2-(ブチレンジオキシ)エチル基[別名:(1,3-ジオキセパン-2-イル)メチル基]等があげられ、より好ましくは2,2-(エチレンジオキシ)エチル基である。

【0021】

前記式(I)において、「複素環」とは、窒素原子、硫黄原子、酸素原子等のヘテロ原子を1～4個含む環を意味し、「5～14員芳香族複素環」および「5～10員非芳香族複素環」が含まれる。当該「複素環」における好ましい環としては、ピロール、ピリジン、ピリダジン、ピリミジン、ピラジン、ピラゾール、イミダゾール、インドール、イソインドール、インドリジン、プリン、インダゾール、キノリン、イソキノリン、キノリジン、フタラジン、ナフチリジン、キソキサリン、キナゾリン、シンノリン、プテリジン、イミダゾトリアジン、ピラジノピリダジン、アクリジン、フェナントリジン、カルバゾール、カルバゾリン、ペリミジン、フェナントロリン、フェナシン、チオフエン、ベンゾチオフエン、フラン、ピラン、シクロペンタピラン、ベンゾフラン、イソベンゾフラン、チアゾール、イソチアゾール、ベンズチアゾール、ベンズチアジアゾール、フェノチアジン、イソキサゾール、フラザン、フェノキサジン、ピラゾロオキサゾール、イミダゾチアゾール、チエノフラン、フロピロール、ピリドオキサジン環等の芳

香族複素環や、ピロリジン、ピロリン、ピペリジン、ピペラジン、イミダゾリン、ピラゾリジン、イミダゾリジン、モルフォリン、テトラヒドロピラン、アジリジン、オキシラン、オキサチオラン、フタルイミド、スクシンイミド環等の非芳香族複素環等があげられ、より好ましくはピリジン、ピリダジン、ピリミジン、ピラジン、ピペリジン、ピペラジン、モルフォリン環である。

【0022】

前記式 (I) において、C環における最も好ましい環としては、ベンゼン、ピリジン、ピリダジン、ピリミジン、ピラジン、ピペリジン、ピペラジン、モルフォリン、シクロプロパン、シクロブタン、シクロペンタン、シクロヘキサン、シクロヘプタン、シクロオクタン環が挙げられる。

【0023】

前記式 (I) における「C₁₋₆アルコキシアルコキシ基」とは、前記定義におけるC₁₋₆アルコキシ基に同意義の基にさらに「C₁₋₆アルコキシ基」が結合した基を意味し、例えばメトキシメトキシ基、メトキシエトキシ基、メトキシプロポキシ基、エトキシメトキシ基、エトキシエトキシ基、エトキシプロポキシ基、プロポキシプロポキシ基等が挙げられる。

【0024】

前記式 (I) において、「アリールオキシ基」における「アリール基」とは、芳香環を構成した炭化水素環基を意味し、例えばフェニル基、インデニル基、ナフチル基、アズレニル基、ヘプタレニル基、アンスニル基、フェナントレニル基等の単環式、二環式又は三環式のアリール基があげられ、当該「アリールオキシ基」における好ましい基としては、フェノキシ基、ナフチルオキシ基等が挙げられる。

また、前記式 (I) において、「アラルキルオキシ基」とは、前記アリール基に同意義の基がC₁₋₆アルキル基と結合し、当該アリールアルキル基がさらに酸素原子と結合した基を意味し、好ましくはベンジルオキシ基、フェニルエトキシ基、フェニルプロポキシ基、ナフチルメトキシ基等である。

【0025】

本願明細書における「置換されていてよい」で示される当該「置換基」として

は、例えばハロゲン原子、水酸基、ニトリル基、 C_{1-6} アルキル基、 C_{3-8} シクロアルキル基、 C_{1-6} アルコキシ基、 C_{1-6} アルコキシアルコキシ基、アリールオキシ基、アラルキルオキシ基、ハロゲン化 C_{1-6} アルキル基、ヒドロキシ C_{1-6} アルキル基、シアノ C_{1-6} アルキル基、ハロゲン化 C_{1-6} アルコキシ基、ヒドロキシ C_{1-6} アルコキシ基、シアノ C_{1-6} アルコキシ基、 C_{1-6} アシル基、ニトロ基、置換されていてもよいアミノ基、置換されていてもよいアミド基、メルカプト基、 C_{1-6} チオアルコキシ基等があげられ、好ましくはハロゲン原子、水酸基、ニトリル基である。

【0026】

本発明に係るシグマ受容体結合剤に含有されるインダノン誘導体もしくはその薬理的に許容される塩又はそれらの水和物の好ましい例としては、

- (1) 1-ベンジル-4-[(5, 6-ジメトキシ-1-インダノン)-2-イリデン]メチルピペリジン、
- (2) 1-ベンジル-4-[(5, 6-ジエトキシ-1-インダノン)-2-イリデン]メチルピペリジン、
- (3) 1-ベンジル-4-[(1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン、
- (4) 1-ベンジル-4-[(5-メトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン、
- (5) 1-ベンジル-4-[(5-エトキシ-6-メトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン、
- (6) 1-ベンジル-4-[(5, 6-ジエトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン、
- (7) 1-ベンジル-4-[[5, 6-ジ(1-プロピルオキシ)-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン、
- (8) 1-ベンジル-4-[2-[(5, 6-ジメトキシ-1-インダノン)-2-イル]エチル]ピペリジン、
- (9) 1-ベンジル-4-[3-[(5, 6-ジメトキシ-1-インダノン)-2-イル]プロピル]ピペリジン、

(10) 1-(3-フルオロベンジル)-4-[(5,6-ジメトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン、

(11) 1-(3-メチルベンジル)-4-[(5,6-ジメトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン、

(12) 1-シクロヘキシルメチル-4-[(5,6-ジメトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジンから選ばれた一種であるインダノン誘導体もしくはその薬理的に許容される塩又はそれらの水和物が挙げられる。ただし、本発明がこれらに限定されないことはいうまでもない。

【0027】

また、本発明に係るインダノン誘導体もしくはその薬理的に許容される塩又はそれらの水和物、及び／又は、本発明に係るシグマ受容体結合剤に含有されるインダノン誘導体もしくはその薬理的に許容される塩又はそれらの水和物は、特に限定されないが、その好ましい例としては、例えば、

(1) 1-ベンジル-4-[[5,6-(1,2-エチレンジオキシ)-1-インダノン]-2-イリデン]メチルピペリジン、

(2) 1-ベンジル-4-[(5-シクロヘキシル-1-インダノン)-2-イリデン]メチルピペリジン、

(3) 1-ベンジル-4-[(5-シクロヘキシルオキシ-6-メトキシ-1-インダノン)-2-イリデン]メチルピペリジン、

(4) 1-ベンジル-4-[[5-メトキシ-6-(2-プロピルオキシ)-1-インダノン]-2-イリデン]メチルピペリジン、

(5) 1-ベンジル-4-[[5,6-(1,2-エチレンジオキシ)-1-インダノン]-2-イル]メチルピペリジン、

(6) 1-ベンジル-4-[(5-シクロヘキシル-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン、

(7) 1-ベンジル-4-[(5-シクロヘキシルオキシ-6-メトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン、

(8) 1-ベンジル-4-[[5-メトキシ-6-(2-プロピルオキシ)-1-インダノン]-2-イル]メチルピペリジン、

- (9) 1-ベンジル-4-[(6-エトキシ-5-メトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン、
- (10) 1-ベンジル-4-[[6-メトキシ-5-(1-プロピルオキシ)-1-インダノン]-2-イル]メチルピペリジン、
- (11) 1-ベンジル-4-[(5-シアノメトキシ-6-メトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン、
- (12) 1-シクロペンチルメチル-4-[(5,6-ジエトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン、
- (13) 1-シクロヘキシルメチル-4-[(5,6-ジエトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン、
- (14) 1-シクロヘプチルメチル-4-[(5,6-ジエトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン、
- (15) 1-シクロオクチルメチル-4-[(5,6-ジエトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン、
- (16) 1-(2-フルオロベンジル)-4-[(5,6-ジエトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン、
- (17) 1-(3-フルオロベンジル)-4-[(5,6-ジエトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン、
- (18) 1-(4-フルオロベンジル)-4-[(5,6-ジエトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン、
- (19) 1-(2-クロロベンジル)-4-[(5,6-ジエトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン、
- (20) 1-(3-クロロベンジル)-4-[(5,6-ジエトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン、
- (21) 1-(4-クロロベンジル)-4-[(5,6-ジエトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン、
- (22) 1-(2-メチルベンジル)-4-[(5,6-ジエトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン、
- (23) 1-(3-メチルベンジル)-4-[(5,6-ジエトキシ-1-イン

ダノン) - 2 - イル] メチルピペリジン、

(24) 1 - (4 - メチルベンジル) - 4 - [(5, 6 - ジエトキシ - 1 - インダノン) - 2 - イル] メチルピペリジンから選ばれた一種であるインダノン誘導体もしくはその薬理的に許容される塩又はそれらの水和物も挙げられる。【0028】

尚、本願明細書中においては、化合物の構造式が便宜上一定の異性体を表すことがあるが、本発明には化合物の構造上生ずる総ての幾何異性体、不斉炭素に基づく光学異性体、立体異性体、互変異性体等の異性体および異性体混合物を含み、便宜上の式の記載に限定されるものではなく、いずれか一方の異性体でも混合物でもよい。従って、分子内に不斉炭素原子を有し光学活性体およびラセミ体が存在することがあり得るが、本発明においては限定されず、いずれもが含まれる。さらに結晶多形が存在することもあるが同様に限定されず、いずれかの単一結晶形又はいずれかの結晶形の混合物であってもよく、無水物以外に水和物であってもよい。

【0029】

本願明細書中における「薬理的に許容される塩」とは、本発明に係るシグマ受容体結合剤に含まれる化合物と薬理的に許容される塩を形成するものであれば特に限定されないが、好ましくはハロゲン化水素酸塩（例えばフッ化水素酸塩、塩酸塩、臭化水素酸塩、ヨウ化水素酸塩等）、無機酸塩（例えば硫酸塩、硝酸塩、過塩素酸塩、リン酸塩、炭酸塩、重炭酸塩等）有機カルボン酸塩（例えば酢酸塩、シュウ酸塩、マレイン酸塩、酒石酸塩、フマル酸塩、クエン酸塩等）、有機スルホン酸塩（例えばメタンスルホン酸塩、トリフルオロメタンスルホン酸塩、エタンスルホン酸塩、ベンゼンスルホン酸塩、トルエンスルホン酸塩、カンファースルホン酸塩等）、アミノ酸塩（例えばアスパラギン酸塩、グルタミン酸塩等）、四級アミン塩、アルカリ金属塩（例えばナトリウム塩、カリウム塩等）、アルカリ土類金属塩（マグネシウム塩、カルシウム塩等）等が挙げられる。当該「薬理的に許容される塩」として、より好ましくは塩酸塩、シュウ酸塩等である。

【0030】

本発明に係るインダノン誘導体もしくはその薬理的に許容される塩又はそれらの

水和物、及び／又は、本発明に係るシグマ受容体結合剤に含有されるインダノン誘導体もしくはその薬理的に許容される塩又はそれらの水和物は、本発明者らによって既に報告された特開平2-169569号公報、特開2001-139547号公報、特開2000-319258号公報等に記載の製造方法に従い、又はそれらの公報に記載された化合物から、容易に製造することができる。

本発明に係るシグマ受容体結合剤に有効成分として含有される化合物がフリー体として得られる場合は、常法に従って塩の状態に変換することができ、また、当該化合物の異性体は、通常分離手段（例えば再結晶、クロマトグラフィー等）を用いることにより精製し、単離することができる。光学活性体が必要な場合には、例えばエノン体を不斉還元する方法、ラセミ体を光学分割する方法や、光学活性な試薬（例えばフッ素化剤等）を用いる方法等により得ることができる。

【0031】

本発明に係るインダノン誘導体もしくはその薬理的に許容される塩又はそれらの水和物、及び／又は、本発明に係るシグマ受容体結合剤に含有されるインダノン誘導体もしくはその薬理的に許容される塩又はそれらの水和物は、極めて優れたシグマ受容体結合作用を有しているが、同時に極めて優れたアセチルルコリンエステラーゼ阻害活性をも有している。

【0032】

本発明に係るシグマ受容体結合剤は、通常の方法により製剤化が可能であり、好ましい剤形としては、例えば、錠剤、フィルム錠や糖衣錠等の被覆錠剤、細粒剤、顆粒剤、散剤、カプセル剤、シロップ剤、ドロッチ剤、吸入剤、坐剤、注射剤、軟膏剤、点眼剤、点鼻剤、点耳剤、パップ剤、ローション剤等が挙げられる。製剤化には、一般に医薬品製剤の原料として用いられる成分を配合し、例えば、通常用いられる賦形剤、崩壊剤、結合剤、滑沢剤、着色剤、矯味矯臭剤や、必要により安定化剤、乳化剤、吸収促進剤、界面活性剤、pH調整剤、防腐剤、抗酸化剤などを添加して常法により製剤化を行う。これらの成分としては、例えば、大豆油、牛脂、合成グリセライド等の動植物油；流動パラフィン、スクワラン、固形パラフィン等の炭化水素；ミリスチン酸オクチルドデシル、ミリスチン酸イソプロピル等のエステル油；セトステアリルアルコール、ベヘニルアルコール

等の高級アルコール；シリコン樹脂；シリコン油；ポリオキシエチレン脂肪酸エステル、ソルビタン脂肪酸エステル、グリセリン脂肪酸エステル、ポリオキシエチレンソルビタン脂肪酸エステル、ポリオキシエチレン硬化ひまし油、ポリオキシエチレンポリオキシプロピレンブロックコポリマー等の界面活性剤；ヒドロキシエチルセルロース、ポリアクリル酸、カルボキシビニルポリマー、ポリエチレングリコール、ポリビニルピロリドン、メチルセルロースなどの水溶性高分子；エタノール、イソプロパノールなどの低級アルコール；グリセリン、プロピレングリコール、ジプロピレングリコール、ソルビトールなどの多価アルコール；グルコース、ショ糖などの糖；無水ケイ酸、ケイ酸アルミニウムマグネシウム、ケイ酸アルミニウムなどの無機粉体、精製水などが挙げられる。賦形剤としては、例えば乳糖、コーンスターチ、白糖、ブドウ糖、マンニトール、ソルビット、結晶セルロース、二酸化ケイ素などが、結合剤としては、例えばポリビニルアルコール、ポリビニルエーテル、メチルセルロース、エチルセルロース、アラビアゴム、トラガント、ゼラチン、シェラック、ヒドロキシプロピルメチルセルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、ポリビニルピロリドン、ポリプロピレングリコール・ポリオキシエチレン・ブロックポリマー、メグルミンなどが、崩壊剤としては、例えば澱粉、寒天、ゼラチン末、結晶セルロース、炭酸カルシウム、炭酸水素ナトリウム、クエン酸カルシウム、デキストリン、ペクチン、カルボキシメチルセルロース・カルシウム等が、滑沢剤としては、例えばステアリン酸マグネシウム、タルク、ポリエチレングリコール、シリカ、硬化植物油等が、着色剤としては医薬品に添加することが許可されているものが、矯味矯臭剤としては、ココア末、ハッカ脳、芳香散、ハッカ油、竜脳、桂皮末等が用いられる。もちろん、これらの添加剤成分に限定される訳ではないことは言うまでもない。

【0033】

経口製剤は、例えば、有効成分である化合物もしくはその薬理的に許容される塩又はこれらの水和物と賦形剤、さらに必要に応じて結合剤、崩壊剤、滑沢剤、着色剤、矯味矯臭剤などを加えた後、常法により散剤、細粒剤、顆粒剤、錠剤、被覆錠剤、カプセル剤等とする。錠剤・顆粒剤の場合には、糖衣、その他必要により適宜コーティングすることはもちろん差支え～ロップ剤や注射用製剤等の場

合は、pH調整剤、溶解剤、等張化剤等と、必要に応じて溶解補助剤、安定化剤などを加えて、常法により製剤化する。また、外用剤の場合は、特に製法が限定されず、常法により製造することができる。使用する基剤原料としては、医薬品、医薬部外品、化粧品等に通常使用される各種原料を用いることが可能で、例えば動植物油、鉱物油、エステル油、ワックス類、高級アルコール類、脂肪酸類、シリコン油、界面活性剤、リン脂質類、アルコール類、多価アルコール類、水溶性高分子類、粘土鉱物類、精製水などの原料が挙げられ、必要に応じ、pH調整剤、抗酸化剤、キレート剤、防腐防黴剤、着色料、香料などを添加することができる。さらに、必要に応じて分化誘導作用を有する成分、血流促進剤、殺菌剤、消炎剤、細胞賦活剤、ビタミン類、アミノ酸、保湿剤、角質溶解剤等の成分を配合することもできる。本発明に係るシグマ受容体結合剤の投与量は、症状の程度、年齢、性別、体重、投与形態・塩の種類、疾患の具体的な種類等に応じて異なるが、通常、成人の場合は1日あたり経口投与で約 $30\mu\text{g}\sim 10\text{g}$ 、好ましくは $100\mu\text{g}\sim 5\text{g}$ 、さらに好ましくは $100\mu\text{g}\sim 100\text{mg}$ を、注射投与で約 $30\mu\text{g}\sim 1\text{g}$ 、好ましくは $100\mu\text{g}\sim 500\text{mg}$ 、さらに好ましくは $100\mu\text{g}\sim 30\text{mg}$ をそれぞれ1回又は数回に分けて投与する。

【0034】

【発明の効果】

本発明に係るインダノン誘導体もしくはその薬理的に許容される塩又はそれらの水和物、及び／又は、本発明に係るシグマ受容体結合剤に含有されるインダノン誘導体もしくはその薬理的に許容される塩又はそれらの水和物のシグマ受容体結合剤としての有用性を示す為、以下に効果例としてシグマ受容体結合実験例を挙げる。また、これらの化合物は、同時にアセチルコリンエステラーゼ阻害活性も有しており、その効果例も以下に示す。本発明化合物の用途がこれらに限定されないことは言うまでもない。

【0035】

シグマ受容体結合実験

(1) レセプターの調製

Weberらの方法(Proc.Natl.Acad.Sci. 83, 8784-8788, 1986) に準拠した以下

の方法により行った。雄性モルモット (Crj, Hartley, 日本チャールスリバー) 10匹 (体重 234 g ~ 260 g) を断頭放血致死させ、速やかに脳を摘出し、組織に対し10倍量の50 mM Tris-HCl (pH 7.4) を加え、テフロン式ホモジナイザーでホモジナイズした後、4℃、50000 x g で20分遠心した。さらに、同一条件で1回洗浄し、得られた粗膜画分を測定に供した。

(2) 測定方法

被検物質として下記の実施例 1, 13, 29, 22, 27, 28, 30, 33 に示したインダノン誘導体を使用し、対照物質としては塩酸ドネペジル (1-ベンジル-4-[(5,6-ジメトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン塩酸塩) を用いて同様の実験を行った。

アッセイチューブ (第一チューブ、DRL) に、被験物質溶液を 0.1 mL、50 mM Tris-HCl buffer (pH 7.4) 0.3 mL、³H-DTG 溶液 (3.2 nM) 0.1 mL およびレセプター (モルモット脳粗膜画分, 5 mg tissue) 0.5 mL を加え、25℃ で1時間インキュベートした。インキュベート後、0.3% エチレンイミン処理した濾紙 (GF/B, Whatman) を用い濾過したのち、濾紙を放射能測定用のバイアルビンに移し、液体シンチレーター (Atomlight, PACKARD) 5 mL を加え混和した後、液体シンチレーションカウンター (1500型、PACKARD) を用い放射能量を測定 (2分間) した。なお、被験物質非存在下での特異的結合量を求めるため、被験物質の代わりに50% DMSO 溶液を、非特異的結合量を求めるため、被験物質の代わりに Haloperidol 溶液 (100 μM) を加え同様の操作を行った。

(3) 阻害率の算出

各濃度における被験物質の阻害率は、被験物質存在下での特異的結合量と非存在下での特異的結合量との比より算出した。Dose-response curve は、被験物質存在下での特異的結合量と非存在下での特異的結合量との比を logit 変換した後、各濃度の常用対数値に対してプロットする logit-log モデルにあてはめ回帰した。IC₅₀ (³H-DTG とモルモット脳粗膜画分の結合を50%阻害する被験物質濃度) 値は、得られた回帰式より算出した。

【0036】

本発明にかかる化合物のシグマ受容体阻害率（ IC_{50} ）は以下の如くである。

【表1】

被検化合物	シグマ受容体阻害率 (IC_{50} (nM))
実施例 1	5.1
実施例 13	1.8
実施例 18	5.0
実施例 22	1.3
実施例 27	1.7
実施例 28	2.3
実施例 30	3.7
実施例 33	7.8
＊) 対照物質	18.7

＊) 対照物質：塩酸ドネペジル

【0037】

本発明により、新規なシグマ受容体結合剤を提供することができた。本発明に係るインダノン誘導体もしくはその薬理的に許容される塩又はそれらの水和物、及び／又は、本発明に係るシグマ受容体結合剤に含有されるインダノン誘導体もしくはその薬理的に許容される塩又はそれらの水和物が、シグマ受容体が関与する疾患の治療・予防剤として有用であり、シグマ受容体拮抗作用又は活性化作用が有効な疾患の治療・予防剤として有用であることは明らかである。

従って、本発明にかかるシグマ受容体結合剤は、抗精神病薬として有用であるほか、精神分裂病、うつ、不安症の治療・予防剤および知的機能改善剤として有用である。また、本発明にかかるシグマ受容体拮抗剤は副作用、投与回数、投与形態等の点でも極めて優れている。

【0038】

アセチルコリンエステラーゼ阻害活性実験

アセチルコリンエステラーゼ源として、ラット脳ホモジェネートを用いて、Ellmanらの方法（Ellman, G. L., Courtney, K. D, Andres, V., Featherstone, R. M .; Biochem. Pharmacol., 7, 88-95, 1961）に準拠してエステラーゼ活性を測定した。DTNB〔5, 5'-ジチオビス（2-ニトロ安息香酸）〕、基質としてのアセチルチオコリン及び被検化合物中にラット脳ホモジェネートを添加し、インキュベーション後、産生したチオコリンがDTNBと反応し、生じる黄色産物を412nmにおける吸光度変化として測定し、アセチルコリンエステラーゼ活性を求めた。

。各被検化合物のアセチルコリンエステラーゼ阻害活性を、50%阻害濃度 (IC₅₀) として求めた。

尚、被検物質として下記の実施例 1, 2, 7, 9, 15 に示したインダノン誘導体を各々蒸留水又はエタノールに溶解して使用し、対照物質としては塩酸ドネペジル (1-ベンジル-4-[(5,6-ジメトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン塩酸塩) を用いて同様の実験を行った。

【0039】

本発明にかかる化合物のアセチルコリンエステラーゼ阻害率 (IC₅₀) は以下の如くである。

【表 2】

被検化合物	アセチルコリンエステラーゼ阻害率 IC ₅₀ (nM)
実施例 1	7.5
実施例 2	2.7
実施例 7	2.4
実施例 9	2.4
実施例 15	2.1
(*) 対照物質	2.8

(*) 対照物質: 塩酸ドネペジル

【0040】

本発明に係るインダノン誘導体もしくはその薬理的に許容される塩又はそれらの水和物、及び／又は、本発明に係るシグマ受容体結合剤に含有されるインダノン誘導体もしくはその薬理的に許容される塩又はそれらの水和物が、優れたアセチルコリンエステラーゼ阻害作用を有し、アセチルコリンエステラーゼ阻害作用が有効な疾患の治療・予防剤として有用であることは明らかである。即ち、アルツハイマー型痴呆やその他の老人性痴呆、脳血管性痴呆、注意欠陥多動障害、緑内障、重症筋無力症、偏頭痛の予防・治療・改善剤としても有用である。

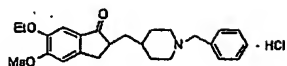
【0041】

【実施例】

以下の実施例により本発明を具体的に説明するが、本発明は、これらに限定される訳ではない。

【0042】 実施例 1 1-ベンジル-4-[(6-エトキシ-5-メトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン・塩酸塩の合成

【化 10】



特開平 2-169569 に記載の 1-ベンジル-[(6-ヒドロキシ-5-メトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン 0.20g をテトラヒドロフラン (THF) 20ml に溶解し、エタノール 0.064ml、トリフェニルホスフィン 0.29g さらにジエチルアゾジカルボキシレート 0.17ml を加えた。室温にて一晩攪拌後、減圧濃縮し、水を加え酢酸エチルにて抽出した。有機層を飽和食塩水にて洗浄し、乾燥 (MgSO_4) 後、減圧濃縮して得られた残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (NH-シリカゲル; n-ヘキサン / 酢酸エチル系) にて精製し、淡黄オイルとして標題化合物 (遊離体) 0.18g (83%) を得た。

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz: CDCl_3) δ : 1.24-1.42 (4H, m), 1.48 (3H, t, $J=6.8\text{Hz}$), 1.63-1.77 (2H, m), 1.88-2.01 (3H, m), 2.66-2.73 (2H, m), 2.86-2.94 (2H, m), 3.22 (1H, dd, $J=8\text{Hz}$, $J=17.6\text{Hz}$), 3.51 (2H, s), 3.95 (3H, s), 4.12 (2H, q, $J=6.8\text{Hz}$), 6.85 (1H, s), 7.16 (1H, s), 7.23-7.34 (5H, m).

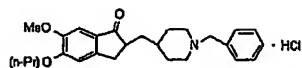
これを常法により塩酸塩とし、エタノール / t-ブチルメチルエーテルから再結晶して、淡黄白色結晶の標題化合物を得た。

ESI-MS : $m/z = 394$ ($\text{M}+\text{H}^+$).

【0043】

実施例 2 1-ベンジル-4-[[5-メトキシ-6-(1-プロピルオキシ)-1-インダノン]-2-イル]メチルピペリジン・塩酸塩の合成

【化 11】



特開平 2-169569 に記載の 1-ベンジル-[(5-ヒドロキシ-6-メトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジンと 1-プロパノールを実施例 1 と同様に処理して、淡黄色オイル状の標題化合物 (遊離体) を得た。(83

%)

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz:CDCl₃) δ : 1.06 (3H,t, J=6.8Hz), 1.26-1.54 (4H,m), 1.63-1.76 (2H,m), 1.86-2.01 (5H,m), 2.64-2.73 (2H,m), 2.86-2.94 (2H,m), 3.21 (1H,dd,J=8Hz,J=17.6Hz), 3.50 (2H,s), 3.88 (3H,s), 4.05 (2H,t,J=6.8Hz), 6.83 (1H,s), 7.16 (1H,s), 7.22-7.33 (5H,m).

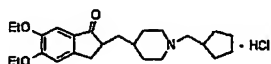
これを常法により塩酸塩とし、エタノール／*t*-ブチルメチルエーテルから再結晶して、淡黄白色結晶の標題化合物を得た。

ESI-MS : m/z = 408 ($M+H^+$).

【0044】

実施例3 1-シクロペンチルメチル-4-[(5,6-ジエトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン・塩酸塩の合成

【化12】



3-1) 3-(3,4-ジエトキシ)プロピオン酸

3-(3,4-ジヒドロキシ)プロピオン酸52.3gをエタノール500mlに溶解し、濃硫酸5mlを加えた。3時間加熱還流した後、室温まで放冷し減圧濃縮して得られた残渣を飽和重曹水と酢酸エチルにて抽出した。有機層を飽和食塩水にて洗浄し、乾燥(MgSO₄)後、減圧濃縮して残渣を得た。

これをジメチルホルムアミド(DMF)320mlに溶解し、炭酸カリウム103gとヨードエタン59.7mlを加えた。50℃にて5時間攪拌後、室温まで放冷し水を加え酢酸エチルにて抽出した。有機層を飽和食塩水にて洗浄し、乾燥(MgSO₄)後、減圧濃縮して残渣を得た。

これをTHF500mlに溶解し、1N水酸化ナトリウム水溶液500mlを加えた。1時間加熱還流した後、室温まで放冷してから水を加え、ジエチルエーテルにて洗浄した。さらに水層を濃塩酸にてpH2に調整した後、析出した固体を濾別して乾燥した。これを酢酸エチルから再結晶化し、白色結晶として標題化合物61.2g(3工程総収率;90%)を得た。

3-2) 5, 6-ジエトキシ-1-インダノン

30.0gをトルエン300mlに溶解し、塩化チオニル27.6mlを加えた。2時間加熱還流した後、室温まで放冷し減圧濃縮した。

これを塩化メチレン300mlに溶解し、氷冷下、塩化アルミニウム20.1gを加えた。そのまま2時間攪拌後、氷水中に注ぎ塩化メチレンにて抽出した。有機層を飽和食塩水にて洗浄し、乾燥(MgSO₄)後、減圧濃縮して残渣を得た。これを酢酸エチルから再結晶化し、白色結晶として標題化合物24.1g (2工程総収率; 87%)を得た。

3-3) 1-ベンジル-4-[(5, 6-ジエトキシ-1-インダノン)-2-イリデン]メチルピペリジン

5, 6-ジエトキシ-1-インダノン24.1gのTHF70ml溶液中に1-ベンジル-4-ホルミルピペリジン26.7gのTHF100mlを加え、さらに氷冷下、ナトリウムメトキシド(28%メタノール溶液)23.2gのTHF30ml溶液を加えた。そのまま2時間攪拌後、氷水中に注ぎ、析出した固体を濾別して乾燥した。これを酢酸エチル-エタノールから再結晶化し、白色結晶として標題化合物39.6g (89%)を得た。

3-4) 4-[(5, 6-ジエトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン

1-ベンジル-4-[(5, 6-ジエトキシ-1-インダノン)-2-イリデン]メチルピペリジン39.4gをメタノール500mlとTHF200mlに溶解し、(20%)水酸化パラジウム炭素4gを加え、室温常圧にて一晩水素添加した。触媒を濾別後、濾液を減圧濃縮して白色粉体として標題化合物30.8g (定量的)を得た。

3-5) メシルオキシメチルシクロペンタン

シクロペンタンメタノール1.00gをTHF20mlに溶解し、トリエチルアミン(TEA)4.17mlと塩化メシル0.95mlを加えた。室温にて30分間攪拌した後、水を加え酢酸エチルにて抽出した。有機層を飽和食塩水にて洗浄し、乾燥(MgSO₄)後、減圧

濃縮して標題化合物1.73g (97%) を得た。

3-6) 1-シクロペンチルメチル-4-[(5, 6-ジエトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン

メシロオキシメチルシクロペンタン0.31gのDMF15ml溶液中に4-[(5, 6-ジエトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン0.50gと炭酸カリウム0.26gを加え、70℃にて一晚攪拌した。室温まで放冷後、水を加え酢酸エチルにて抽出した。有機層を飽和食塩水にて洗浄し、乾燥(MgSO₄)後、減圧濃縮して得られた残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (NH-シリカゲル; n-ヘキサン / 酢酸エチル系) にて精製し、淡黄オイルとして標題化合物 (遊離体) 0.33g (68%) を得た。

¹H-NMR (400MHz:CDCl₃) δ : 1.13-1.23 (2H,m), 1.26-1.43 (3H,m), 1.44-1.82 (9H,m), 1.47 (3H,t,J=6.8Hz), 1.51 (3H,t,J=6.8Hz), 1.86-1.96 (3H,m), 2.06 (1H,qui,J=6.8Hz), 2.27 (2H,d,J=6.8Hz), 2.65-2.73 (2H,m), 2.89-2.98 (2H,m), 3.22 (1H,dd,J=8Hz,J=17.6Hz), 4.11 (2H,q,J=6.8Hz), 4.17 (2H,q,J=6.8Hz), 6.83 (1H,s), 7.16 (1H,s).

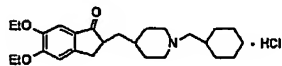
これを常法により塩酸塩とし、エタノール/t-ブチルメチルエーテルから再結晶して、淡黄白色結晶の標題化合物を得た。

ESI-MS : m/z = 400 (M+H⁺).

【0045】

実施例4 1-シクロヘキシルメチル-4-[(5, 6-ジエトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン・塩酸塩の合成

【化13】



4-[(5, 6-ジエトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン0.50gを塩化メチレン10mlに溶解し、シクロヘキサンカルボアルデヒド0.21ml、酢酸0.14mlさらに水素化トリアセトキシホウ素ナトリウム0.50gを加えた。室温

にて4時間攪拌した後、飽和炭酸ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルにて抽出した。有機層を飽和食塩水にて洗浄し、乾燥(MgSO_4)後、減圧濃縮して得られた残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー (NH-シリカゲル; n-ヘキサン / 酢酸エチル系) にて精製し、淡黄オイルとして標題化合物 (遊離体) 0.59g (91%) を得た。

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz: CDCl_3) δ : 0.80-0.94 (2H, m), 1.10-1.95 (18H, m), 1.47 (3H, t, $J=6.8\text{Hz}$), 1.51 (3H, t, $J=6.8\text{Hz}$), 2.09 (2H, d, $J=7.2\text{Hz}$), 2.65-2.73 (2H, m), 2.82-2.90 (2H, m), 3.22 (1H, dd, $J=8\text{Hz}$, $J=17.6\text{Hz}$), 4.11 (2H, q, $J=6.8\text{Hz}$), 4.17 (2H, q, $J=6.8\text{Hz}$), 6.83 (1H, s), 7.16 (1H, s).

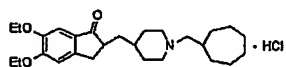
これを常法により塩酸塩とし、エタノール/t-ブチルメチルエーテルから再結晶して、淡黄白色結晶の標題化合物を得た。

ESI-MS : $m/z = 414$ ($\text{M}+\text{H}^+$).

【0046】

実施例 5 1-シクロヘプチルメチル-4-[(5, 6-ジエトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン・塩酸塩の合成

【化14】



5-1) シクロヘプタンカルボン酸メチル

シクロヘプタンカルボン酸とメタノールを実施例3-1と同様に処理して標題化合物を得た。(81%)

5-2) シクロペンタンメタノール

シクロヘプタンカルボン酸メチル1.76gをTHF20mlに溶解し、氷冷下、(80%) 水素化リチウムアルミニウム0.53gを加えた。そのまま1時間攪拌後、(1N) 水酸化ナトリウム水溶液と酢酸エチルを加え固形物を濾別した。濾液を乾燥(MgSO_4)後、減圧濃縮して標題化合物0.96g (66%) を得た。

5-3) メシルオキシメチルシクロヘプタン

実施例 3-5 と同様にして、標題化合物を得た。(93%)

5-4) 1-シクロヘプチルメチル-4-[(5,6-ジエトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン

実施例 3-6 と同様にして、淡黄色オイル状の標題化合物(遊離体)を得た。(74%)

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz: CDCl_3) δ : 1.05-1.15 (2H, m), 1.24-1.44 (20H, m), 1.47 (3H, t, $J=6.8\text{Hz}$), 1.51 (3H, t, $J=6.8\text{Hz}$), 2.07 (2H, d, $J=7.6\text{Hz}$), 2.65-2.73 (2H, m), 2.82-2.90 (2H, m), 3.22 (1H, dd, $J=8\text{Hz}$, $J=17.6\text{Hz}$), 4.11 (2H, q, $J=6.8\text{Hz}$), 4.17 (2H, q, $J=6.8\text{Hz}$), 6.83 (1H, s), 7.16 (1H, s).

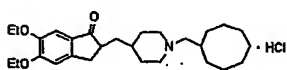
これを常法により塩酸塩とし、エタノール/*t*-ブチルメチルエーテルから再結晶して、淡黄白色結晶の標題化合物を得た。

ESI-MS : $m/z = 428$ ($M+H^+$).

【0047】

実施例 6 1-シクロオクチルメチル-4-[(5,6-ジエトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン・塩酸塩の合成

【化15】

6-1) メシルオキシメチルシクロオクタン

実施例 3-5 と同様にして、標題化合物を得た。(99%)

6-2) 1-シクロオクチルメチル-4-[(5,6-ジエトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン

実施例 3-6 と同様にして、淡黄色オイル状の標題化合物(遊離体)を得た。(

86%)

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz: CDCl_3) δ : 1.15-1.75 (21H, m), 1.47 (3H, t, $J=6.8\text{Hz}$), 1.51 (3H, t, $J=6.8\text{Hz}$), 1.80-1.95 (3H, m), 2.05 (2H, d, $J=7.2\text{Hz}$), 2.65-2.74 (2H, m), 2.82-2.90 (2H, m), 3.22 (1H, dd, $J=8.4\text{Hz}$, $J=17.6\text{Hz}$), 4.11 (2H, q, $J=6.8\text{Hz}$), 4.17 (2H, q, $J=6.8\text{Hz}$), 6.83 (1H, s), 7.16 (1H, s).

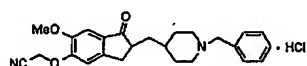
これを常法により塩酸塩とし、エタノール/*t*-ブチルメチルエーテルから再結晶して、淡黄白色結晶の標題化合物を得た。

ESI-MS : m/z = 442 ($\text{M}+\text{H}^+$).

【0048】

実施例7 1-ベンジル-4-[(5-シアノメトキシ-6-メトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン・塩酸塩の合成

【化16】



1-ベンジル-[(5-ヒドロキシ-6-メトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン0.25gをDMF10mlに溶解し、炭酸カリウム0.14gと臭化アセトニトリル0.071mlを加えた。80℃にて一晚攪拌後、室温まで放冷し、水を加え酢酸エチルにて抽出した。有機層を飽和食塩水にて洗浄し、乾燥(MgSO_4)後、減圧濃縮して得られた残渣を分取用薄層シリカゲルカラムクロマトグラフィー(塩化メチレン/メタノール系)にて精製し、淡黄オイルとして標題化合物(遊離体)0.12g(44%)を得た。

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz: CDCl_3) δ : 1.30-1.44 (3H, m), 1.44-1.59 (1H, m), 1.65-1.78 (2H, m), 1.86-1.95 (1H, m), 1.98-2.08 (2H, m), 2.68-2.78 (2H, m), 2.90-2.99 (2H, m), 3.22-3.31 (1H, m), 3.56 (2H, s), 3.91 (3H, s), 4.92 (2H, s), 7.04 (1H, s), 7.23-7.35 (5H, m), 7.24 (1H, s).

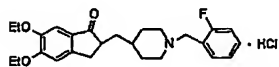
これを常法により塩酸塩とし、エタノール/*t*-ブチルメチルエーテルから再結晶して、淡黄白色結晶の標題化合物を得た。

ESI-MS : m/z = 405 ($\text{M}+\text{H}^+$).

【0049】

実施例 8 1-(2-フルオロベンジル)-4-[(5,6-ジエトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン・塩酸塩の合成

【化17】



実施例4と同様にして、淡黄色オイル状の標題化合物（遊離体）を得た。（88%）

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz: CDCl_3) δ : 1.26-1.45 (4H,m), 1.46 (3H,t, $J=6.8\text{Hz}$), 1.51 (3H, t, $J=6.8\text{Hz}$), 1.63-1.77 (2H,m), 1.86-1.94 (1H,m), 1.99-2.08 (2H,m), 2.64-2.71 (2H,m), 2.87-2.96 (2H,m), 3.20 (1H,dd, $J=8\text{Hz}$, $J=17.6\text{Hz}$), 3.59 (2H,s), 4.11 (2H,q, $J=6.8\text{Hz}$), 4.16 (2H,q, $J=6.8\text{Hz}$), 6.83 (1H,s), 6.99-7.06 (1H,m), 7.11 (1H,dt, $J=1.2\text{Hz}$, $J=7.6\text{Hz}$), 7.15 (1H,s), 7.20-7.28 (1H,m), 7.38 (1H, dt, $J=1.6\text{Hz}$, $J=7.6\text{Hz}$).

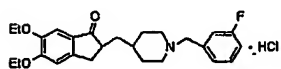
これを常法により塩酸塩とし、エタノール/*t*-ブチルメチルエーテルから再結晶して、淡黄白色結晶の標題化合物を得た。

ESI-MS : m/z = 426 ($M+H^+$).

【0050】

実施例 9 1-(3-フルオロベンジル)-4-[(5,6-ジエトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン・塩酸塩の合成

【化18】



実施例4と同様にして、淡黄色オイル状の標題化合物（遊離体）を得た。（79%）

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz: CDCl_3) δ : 1.25-1.44 (4H,m), 1.46 (3H,t, $J=6.8\text{Hz}$), 1.51 (3H, t, $J=6.8\text{Hz}$), 1.64-1.77 (2H,m), 1.87-2.04 (3H,m), 2.64-2.72 (2H,m), 2.84-

2.93 (2H,m), 3.21 (1H,dd,J=8Hz,J=17.6Hz), 3.50 (2H,s), 4.11 (2H,q,J=6.8Hz), 4.16 (2H,q,J=6.8Hz), 6.83 (1H,s), 6.90-6.97 (1H,m), 7.04-7.11 (2H,m), 7.15 (1H,s), 7.23-7.30 (1H,m).

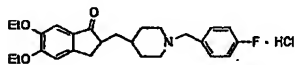
これを常法により塩酸塩とし、エタノール／*t*-ブチルメチルエーテルから再結晶して、淡黄白色結晶の標題化合物を得た。

ESI-MS : $m/z = 426$ ($M+H^+$).

【0051】

実施例 10 1-(4-フルオロベンジル)-4-[(5,6-ジエトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン・塩酸塩の合成

【化19】



実施例 4 と同様にして、淡黄色オイル状の標題化合物（遊離体）を得た。（90%）

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz:CDCl₃) δ : 1.25-1.40 (4H,m), 1.46 (3H,t,J=6.8Hz), 1.51 (3H,t,J=6.8Hz), 1.63-1.77 (2H,m), 1.87-2.00 (3H,m), 2.64-2.72 (2H,m), 2.83-2.91 (2H,m), 3.21 (1H,dd,J=8Hz,J=17.6Hz), 3.46 (2H,s), 4.11 (2H,q,J=6.8Hz), 4.16 (2H,q,J=6.8Hz), 6.83 (1H,s), 6.96-7.03 (2H,m), 7.15 (1H,s), 7.24-7.30 (2H,m).

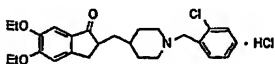
これを常法により塩酸塩とし、エタノール／*t*-ブチルメチルエーテルから再結晶して、淡黄白色結晶の標題化合物を得た。

ESI-MS : $m/z = 426$ ($M+H^+$).

【0052】

実施例 11 1-(2-クロロベンジル)-4-[(5,6-ジエトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン・塩酸塩の合成

【化20】



実施例 4 と同様にして、淡黄色オイル状の標題化合物（遊離体）を得た。（80%）

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz: CDCl_3) δ : 1.24-1.45 (4H, m), 1.46 (3H, t, $J=6.8\text{Hz}$), 1.51 (3H, t, $J=6.8\text{Hz}$), 1.64-1.79 (2H, m), 1.88-1.96 (1H, m), 2.04-2.13 (2H, m), 2.65-2.73 (2H, m), 2.88-2.96 (2H, m), 3.22 (1H, dd, $J=8\text{Hz}$, $J=17.6\text{Hz}$), 3.61 (2H, s), 4.11 (2H, q, $J=6.8\text{Hz}$), 4.17 (2H, q, $J=6.8\text{Hz}$), 6.83 (1H, s), 7.14-7.38 (3H, m), 7.16 (1H, s), 7.49 (2H, dd, $J=1.6\text{Hz}$, $J=7.6\text{Hz}$).

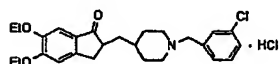
これを常法により塩酸塩とし、エタノール/*t*-ブチルメチルエーテルから再結晶して、淡黄白色結晶の標題化合物を得た。

ESI-MS : $m/z = 442$ ($\text{M}+\text{H}^+$).

【0053】

実施例 12 1 - (3-クロロベンジル) - 4 - [(5, 6-ジエトキシ-1-インダノン) - 2-イル] メチルピペリジン・塩酸塩の合成

【化 21】



実施例 4 と同様にして、淡黄色オイル状の標題化合物（遊離体）を得た。（85%）

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz: CDCl_3) δ : 1.24-1.42 (4H, m), 1.46 (3H, t, $J=6.8\text{Hz}$), 1.51 (3H, t, $J=6.8\text{Hz}$), 1.63-1.77 (2H, m), 1.87-2.02 (3H, m), 2.65-2.73 (2H, m), 2.83-2.91 (2H, m), 3.21 (1H, dd, $J=8.4\text{Hz}$, $J=17.6\text{Hz}$), 3.46 (2H, s), 4.11 (2H, q, $J=6.8\text{Hz}$), 4.17 (2H, q, $J=6.8\text{Hz}$), 6.83 (1H, s), 7.16 (1H, s), 7.18-7.34 (4H, m).

これを常法により塩酸塩とし、エタノール/*t*-ブチルメチルエーテルから再結晶して、淡黄白色結晶の標題化合物を得た。

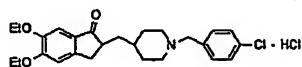
ESI-MS : $m/z = 442$ ($\text{M}+\text{H}^+$).

【0054】

実施例 13 1 - (4-クロロベンジル) - 4 - [(5, 6-ジエトキシ-1-

インダノン) - 2-イル] メチルピペリジン・塩酸塩の合成

【化 2 2】



実施例 4 と同様にして、淡黄色オイル状の標題化合物（遊離体）を得た。（89%）

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz: CDCl_3) δ : 1.24-1.40 (4H, m), 1.46 (3H, t, $J=6.8\text{Hz}$), 1.51 (3H, t, $J=6.8\text{Hz}$), 1.63-1.76 (2H, m), 1.86-2.00 (3H, m), 2.64-2.72 (2H, m), 2.81-2.90 (2H, m), 3.21 (1H, dd, $J=8\text{Hz}$, $J=17.6\text{Hz}$), 3.45 (2H, s), 4.11 (2H, q, $J=6.8\text{Hz}$), 4.16 (2H, q, $J=6.8\text{Hz}$), 6.83 (1H, s), 7.15 (1H, s), 7.23-7.34 (4H, m).

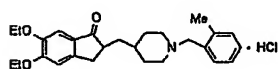
これを常法により塩酸塩とし、エタノール/ t -ブチルメチルエーテルから再結晶して、淡黄白色結晶の標題化合物を得た。

ESI-MS : $m/z = 442$ ($\text{M}+\text{H}^+$).

【0055】

実施例 14 1-(2-(4-メチルベンジル)-4-[(5,6-ジエトキシ-1-インダノン)-2-イル] メチルピペリジン・塩酸塩の合成

【化 2 3】



実施例 4 と同様にして、淡黄色オイル状の標題化合物（遊離体）を得た。（70%）

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz: CDCl_3) δ : 1.23-1.39 (4H, m), 1.46 (3H, t, $J=6.8\text{Hz}$), 1.51 (3H, t, $J=6.8\text{Hz}$), 1.60-1.76 (2H, m), 1.87-2.04 (3H, m), 2.36 (3H, s), 2.65-2.73 (2H, m), 2.84-2.93 (2H, m), 3.21 (1H, dd, $J=8\text{Hz}$, $J=17.6\text{Hz}$), 3.43 (2H, s), 4.11 (2H, q, $J=6.8\text{Hz}$), 4.17 (2H, q, $J=6.8\text{Hz}$), 6.83 (1H, s), 7.12-7.30 (4H, m), 7.15 (1H, s).

これを常法により塩酸塩とし、エタノール/ t -ブチルメチルエーテルから再結

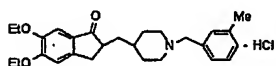
晶して、淡黄白色結晶の標題化合物を得た。

ESI-MS : $m/z = 422$ ($M+H^+$).

【 0 0 5 6 】

実施例 1 5 1 - (3 - メチルベンジル) - 4 - [(5 , 6 - ジエトキシ - 1 -
インダノン) - 2 - イル] メチルピペリジン ・ 塩酸塩の合成

【化 2 4】



実施例 4 と同様にして、淡黄色オイル状の標題化合物（遊離体）を得た。（77%）

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz:CDCl₃) δ : 1.26-1.43 (4H,m), 1.46 (3H,t,J=6.8Hz), 1.51 (3H,t,J=6.8Hz), 1.63-1.76 (2H,m), 1.87-2.00 (3H,m), 2.35 (3H,s), 2.64-2.72 (2H,m), 2.86-2.94 (2H,m), 3.21 (1H,dd,J=8Hz,J=17.6Hz), 3.46 (2H,s), 4.12 (2H,q,J=6.8Hz), 4.16 (2H,q,J=6.8Hz), 6.83 (1H,s), 7.04-7.15 (3H,m), 7.15 (1H,s), 7.20 (1H,t,J=7.6Hz).

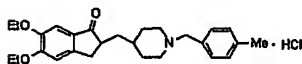
これを常法により塩酸塩とし、エタノール／*t*-ブチルメチルエーテルから再結晶して、淡黄白色結晶の標題化合物を得た。

ESI-MS : $m/z = 422$ ($M+H^+$).

【 0 0 5 7 】

実施例 1 6 1 - (4 - メチルベンジル) - 4 - [(5 , 6 - ジエトキシ - 1 -
インダノン) - 2 - イル] メチルピペリジン ・ 塩酸塩の合成

【化 2 5】



実施例 4 と同様にして、淡黄色オイル状の標題化合物（遊離体）を得た。（74%）

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz:CDCl₃) δ : 1.25-1.42 (4H,m), 1.46 (3H,t,J=6.8Hz), 1.51 (3H

, t, J=6.8Hz), 1.61-1.76 (2H, m), 1.86-2.00 (3H, m), 2.34 (3H, s), 2.64-2.71 (2H, m), 2.85-2.94 (2H, m), 3.20 (1H, dd, J=8Hz, J=17.6Hz), 3.47 (2H, s), 4.11 (2H, q, J=6.8Hz), 4.16 (2H, q, J=6.8Hz), 6.83 (1H, s), 7.15 (1H, s), 7.16 (4H, dd, J=7.6Hz, J=30.8Hz).

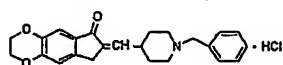
これを常法により塩酸塩とし、エタノール／*t*-ブチルメチルエーテルから再結晶して、淡黄白色結晶の標題化合物を得た。

ESI-MS : $m/z = 422$ ($M+H^+$).

【0058】

実施例 17 1-ベンジル-4-[[5, 6-(1, 2-エチレンジオキシ)-1-インダノン]-2-イリデン]メチルピペリジン・塩酸塩の合成

【化 2 6】



実施例 3-3 と同様にして、淡黄色オイル状の標題化合物（遊離体）を得た。（67%）

$^1\text{H-NMR}$ (90MHz: CDCl_3) δ : 1.40-2.50 (7H, m), 2.72-3.00 (2H, m), 3.40-3.60 (4H, m), 4.08-4.35 (4H, m), 6.48-6.68 (1H, m), 6.82 (1H, s), 7.10-7.35 (5H, m), 7.20 (1H, s).

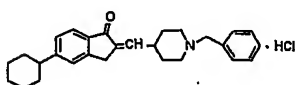
これを常法により塩酸塩とし、メタノール／ジイソプロピルエーテルから再結晶して、淡黄白色結晶の標題化合物を得た。

GC-MS : $m/z = 375$ (M^+).

【0059】

実施例 18 1-ベンジル-4-[(5-シクロヘキシル-1-インダノン)-2-イリデン]メチルピペリジン・塩酸塩の合成

【化 2 7】



実施例 3-3 と同様にして、淡黄色オイル状の標題化合物（遊離体）を得た。（22%）

$^1\text{H-NMR}$ (90MHz: CDCl_3) δ : 1.10-3.02 (20H, m), 3.50 (2H, s), 3.50-3.62 (2H, m), 6.55-6.78 (1H, m), 7.02-7.80 (8H, m).

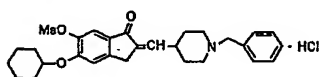
これを常法により塩酸塩とし、メタノール/ジイソプロピルエーテルから再結晶して、淡黄白色結晶の標題化合物を得た。

GC-MS : m/z = 399 (M^+).

【0060】

実施例 19 1-ベンジル-4-[(5-シクロヘキシルオキシ-6-メトキシ-1-インダノン)-2-イリデン]メチルピペリジン・塩酸塩の合成

【化 28】



実施例 3-3 と同様にして、淡黄色オイル状の標題化合物（遊離体）を得た。（67%）

$^1\text{H-NMR}$ (90MHz: CDCl_3) δ : 1.10-2.52 (19H, m), 2.72-3.02 (2H, m), 3.48 (2H, s), 3.48-3.60 (2H, m), 3.82 (3H, s), 6.52-6.78 (1H, m), 6.82 (1H, s), 7.05-7.50 (6H, m).

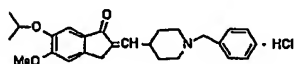
これを常法により塩酸塩とし、メタノール/ジイソプロピルエーテルから再結晶して、淡黄白色結晶の標題化合物を得た。

GC-MS : m/z = 446 ($\text{M} + \text{H}^+$).

【0061】

実施例 20 1-ベンジル-4-[[5-メトキシ-6-(2-プロピルオキシ)-1-インダノン]-2-イリデン]メチルピペリジン・塩酸塩の合成

【化 29】



実施例 3-3 と同様にして、淡黄色オイル状の標題化合物（遊離体）を得た。（60%）

$^1\text{H-NMR}$ (90MHz: CDCl_3) δ : 1.35 (3H, s), 1.41 (3H, s), 1.58-2.50 (9H, m), 2.78-3.02 (2H, m), 3.48 (2H, s), 3.48-3.60 (2H, m), 3.90 (3H, s), 4.40-4.70 (1H, m), 6.48-6.68 (1H, m), 6.81 (1H, s), 7.10-7.38 (6H, m).

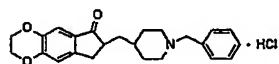
これを常法により塩酸塩とし、メタノール／ジイソプロピルエーテルから再結晶して、淡黄白色結晶の標題化合物を得た。

EI-MS : m/z = 405 (M^+).

【 0 0 6 2 】

実施例 2 1 1-ベンジル-4-[[5, 6-(1, 2-エチレンジオキシ)-1-インダノン]-2-イル]メチルピペリジン・塩酸塩の合成

【化 3 0】



1-ベンジル-4-[[5, 6-(1, 2-エチレンジオキシ)-1-インダノン]-2-イリデン]メチルピペリジン1.20gをTHF30mlに溶解し、(10%)パラジウム炭素0.2gを加え、室温常圧にて2時間水素添加した。触媒を濾別後、濾液を減圧濃縮して得られた残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー（塩化メチレン／メタノール系）にて精製し、淡黄オイルとして標題化合物（遊離体）0.59g (87%)を得た。

$^1\text{H-NMR}$ (90MHz: CDCl_3) δ : 1.08-3.35 (14H, m), 3.48 (2H, s), 4.10-4.35 (4H, m), 6.80 (1H, s), 7.18 (1H, s), 7.18-7.32 (5H, m).

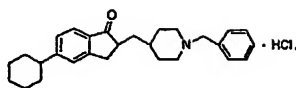
これを常法により塩酸塩とし、エタノール／ジイソプロピルエーテルから再結晶して、淡黄白色結晶の標題化合物を得た。

GC-MS : m/z = 377 (M^+).

【 0 0 6 3 】

実施例 2 2 1-ベンジル-4-[(5-シクロヘキシル-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン・塩酸塩の合成

【化 3 1】



実施例 2 1 と同様にして、淡黄色オイル状の標題化合物（遊離体）を得た。（75 %）

$^1\text{H-NMR}$ (90Mz: CDCl_3) δ : 1.00-3.42 (25H, m), 3.48 (2H, s), 7.10 (1H, s), 7.10-7.68 (7H, m).

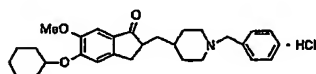
これを常法により塩酸塩とし、エタノール／ジイソプロピルエーテルから再結晶して、淡黄白色結晶の標題化合物を得た。

GC-MS : m/z = 401 (M^+).

【0 0 6 4】

実施例 2 3 1-ベンジル-4-[(5-シクロヘキシルオキシ-6-メトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン・塩酸塩の合成

【化 3 2】



実施例 2 1 と同様にして、淡黄色オイル状の標題化合物（遊離体）を得た。（86 %）

$^1\text{H-NMR}$ (90Mz: CDCl_3) δ : 1.10-3.18 (24H, m), 3.48 (2H, s), 3.82 (3H, s), 4.10-4.45 (1H, m), 6.79 (1H, s), 7.10 (1H, s), 7.10-7.33 (5H, m).

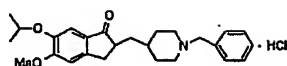
これを常法により塩酸塩とし、エタノール／ジイソプロピルエーテルから再結晶して、淡黄白色結晶の標題化合物を得た。

GC-MS : m/z = 448 (M^+).

【0 0 6 5】

実施例 2 4 1-ベンジル-4-[[5-メトキシ-6-(2-プロピルオキシ)-1-インダノン]-2-イル]メチルピペリジン・塩酸塩の合成

【化 3 3】



実施例 2 1 と同様にして、淡黄色オイル状の標題化合物（遊離体）を得た。（54%）

$^1\text{H-NMR}$ (90MHz: CDCl_3) δ : 1.05-3.35 (14H, m), 1.35 (3H, s), 1.40 (3H, s), 3.48 (2H, s), 3.88 (3H, s), 4.35-4.70 (1H, m), 6.78 (1H, s), 7.10 (1H, s), 7.10-7.35 (5H, m).

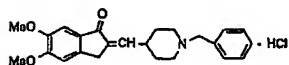
これを常法により塩酸塩とし、メタノール／ジイソプロピルエーテルから再結晶して、淡黄白色結晶の標題化合物を得た。

GC-MS : m/z = 408 (M^+).

【0 0 6 6】

実施例 2 5 1-ベンジル-4-[(5, 6-ジメトキシ-1-インダノン)-2-イリデン] メチルピペリジン・塩酸塩

【化 3 4】

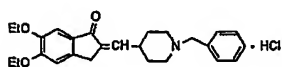


特開平 2 - 1 6 9 5 6 9 に記載化合物であり、シグマ受容体結合作用を有していた。

【0 0 6 7】

実施例 2 6 1-ベンジル-4-[(5, 6-ジエトキシ-1-インダノン)-2-イリデン] メチルピペリジン・塩酸塩

【化 3 5】



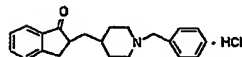
特開平 2 - 1 6 9 5 6 9 に記載化合物であり、シグマ受容体結合作用を有してい

た。

【0068】

実施例 27 1-ベンジル-4-[(1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン・塩酸塩

【化 36】

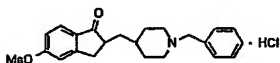


特開平 2-169569 に記載化合物であり、シグマ受容体結合作用を有していた。

【0069】

実施例 28 1-ベンジル-4-[(5-メトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン・塩酸塩

【化 37】

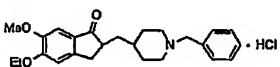


特開平 2-169569 に記載化合物であり、シグマ受容体結合作用を有していた。

【0070】

実施例 29 1-ベンジル-4-[(5-エトキシ-6-メトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン・塩酸塩

【化 38】



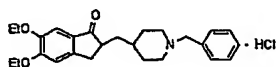
特開 2001-139547 に記載化合物であり、シグマ受容体結合作用を有していた。

【0071】

実施例 30 1-ベンジル-4-[(5,6-ジエトキシ-1-インダノン)-

2-イル] メチルピペリジン・塩酸塩

【化 39】

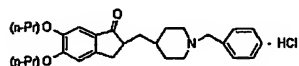


特開平 2-169569 に記載化合物であり、シグマ受容体結合作用を有していた。

【0072】

実施例 31 1-ベンジル-4-[[5,6-ジ(1-プロピルオキシ)-1-インダノン]-2-イル]メチルピペリジン・塩酸塩

【化 40】

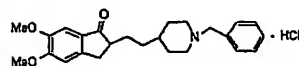


特開 2000-319258 に記載化合物であり、シグマ受容体結合作用を有していた。

【0073】

実施例 32 1-ベンジル-4-[2-[(5,6-ジメトキシ-1-インダノン)-2-イル]エチル]ピペリジン・塩酸塩

【化 41】

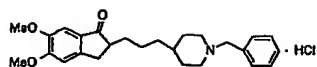


特開平 2-169569 に記載化合物であり、シグマ受容体結合作用を有していた。

【0074】

実施例 33 1-ベンジル-4-[3-[(5,6-ジメトキシ-1-インダノン)-2-イル]プロピル]ピペリジン・塩酸塩

【化 4 2】

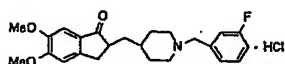


特開平 2-169569 に記載化合物であり、シグマ受容体結合作用を有していた。

【0075】

実施例 3 4 1-(3-フルオロベンジル)-4-[(5,6-ジメトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン・塩酸塩

【化 4 3】

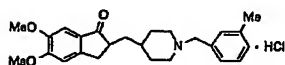


特開平 2-169569 に記載化合物であり、シグマ受容体結合作用を有していた。

【0076】

実施例 3 5 1-(3-メチルベンジル)-4-[(5,6-ジメトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン・塩酸塩

【化 4 4】

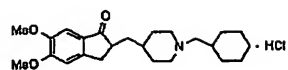


特開平 2-169569 に記載化合物であり、シグマ受容体結合作用を有していた。

【0077】

実施例 3 6 1-シクロヘキシルメチル-4-[(5,6-ジメトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジン・塩酸塩

【化 4 5】



特開平 2 - 1 6 9 5 6 9 に記載化合物であり、シグマ受容体結合作用を有していた。

【書類名】

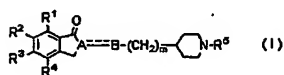
要約書

【要約】

【課題】 インダノン誘導体及びインダノン誘導体を含む優れたシグマ受容体結合剤の提供

【解決手段】 式

【化1】



〔式 (I) 中、(R¹、R²、R³およびR⁴は同一又は相異なって水素原子、ハロゲン原子、水酸基、ニトリル基、置換されていてもよいC₁₋₆アルキル基、置換されていてもよいC₃₋₈シクロアルキル基、置換されていてもよいC₁₋₆アルコキシ基、置換されていてもよいC₃₋₈シクロアルコキシ基、置換されていてもよいC₁₋₆アシル基、置換されていてもよいC₁₋₆アルコキシカルボニル基、置換されていてもよいC₁₋₆アルキルアミノカルボニルオキシ基、置換されていてもよいジ(C₁₋₆アルキル)アミノカルボニルオキシ基、ニトロ基、置換されていてもよいアミノ基、置換されていてもよいアミド基、メルカプト基又は置換されていてもよいC₁₋₆チオアルコキシ基を示し、さらにR¹とR²又はR²とR³又はR³とR⁴で脂肪環、芳香環、複素環又はアルキレンジオキシ環を形成してもよい；

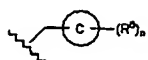
部分構造

【化2】



は>CH-CH₂-又は>C=CH-で表される基を示す； mは0又は1～5の整数を示す。)で表される基から選ばれたいずれかの基を示す； R⁵は水素原子、置換されていてもよいC₁₋₆アルキル基、置換されていてもよいC₂₋₆アルケニル基、置換されていてもよいC₂₋₆アルキニル基、置換されていてもよいC₃₋₈シクロアルキル基、2, 2-(アルキレンジオキシ)エチル基又は式

【化 3】



(式中、C環はベンゼン環、脂肪環又は複素環を示す； R^6 はそれぞれ同一又は相異なって水素原子、ハロゲン原子、水酸基、ニトリル基、置換されていてもよい C_{1-6} アルキル基、置換されていてもよい C_{2-6} アルケニル基、置換されていてもよい C_{2-6} アルキニル基、置換されていてもよい C_{3-8} シクロアルキル基、置換されていてもよい C_{1-6} アルコキシ基、置換されていてもよい C_{1-6} アルコシアルコキシ基、置換されていてもよいアリールオキシ基、置換されていてもよいアラルキルオキシ基等を示し、さらに、 R^6 は2つの R^6 どうして脂肪環、芳香環、複素環又はアルキレンジオキシ環を形成してもよい； n は1～5の整数を示す。)で表される基を示す； ただし、1-ベンジル-4-[(5,6-ジメトキシ-1-インダノン)-2-イル]メチルピペリジンもしくはその薬理的に許容される塩又はそれらの水和物を除く。]で表されるインダノン誘導体もしくはその薬理的に許容される塩又はそれらの水和物を含有してなるシグマ受容体結合剤

【選択図】

なし

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[000000217]

1. 変更年月日

1990年 8月29日

[変更理由]

新規登録

住 所

東京都文京区小石川4丁目6番10号

氏 名

エーザイ株式会社